

第三十二回フォト旬会優秀作品(25年9月9日)

<自由題>



喧嘩してさっきはどうもと

さぐり入れ 大月 和彦

寸評:スペインのタベルナの店頭で電話している彼。通行人の視線は無視して懸命に話している。何気ない風景だ。作者は旅行先で奥さんと喧嘩した自分の姿を詠んでいる。

装えど隠し切れない

肌の荒れ 中村 晃也

寸評:安キャバレーの年増のママ。派手にお化粧しているが良く見ると顔はシワだらけだ。薄暗いお店では通用するが、白日に晒されると年齢が露呈してしまう。



こんな顔かってに撮って

ワシャ知らん 矢澤 正二

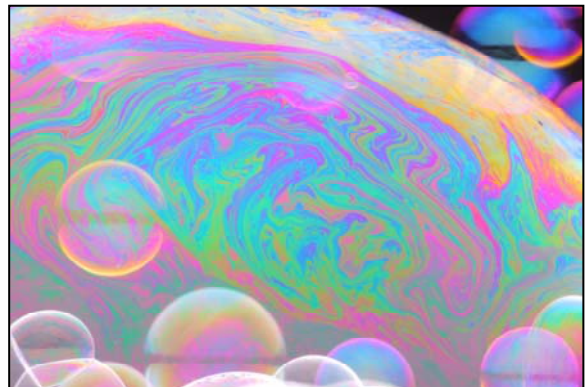
寸評:フグ屋の水槽に牢名主のように昔から住んでいる親分。断りもなく写真を撮られすぐにムットふくれるから、フグという名前になったとか。



限りない宇宙の色は

恋の色 黒澤 弘子

寸評：シャボンの薄膜に光を当て瞬間的に写真を撮る技法は、写真愛好家がよく用いるが、当会では初めてである。句も千変万化するはかない恋の心情を現して新鮮。



この道の先はイバラか

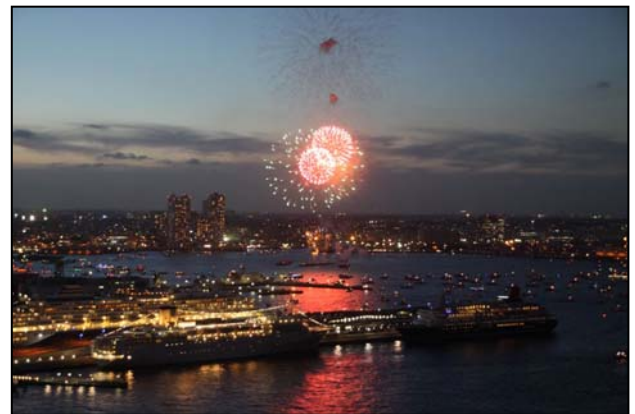
バラ色か 下山 健夫

寸評：新郎新婦が歩む赤絨毯。その先はバラ色の新婚生活かそれともイバラの道か、作者は己の経験から率直な疑問を呈している。立て札には皮肉にも「足元注意」とある。

大花火 港の夢は

夜開く 黒澤 弘子

寸評：薄暮の空を背景にした横浜港での花火大会。綺麗な写真である。句は、藤けい子の菩提を弔う意味もあるのか、やや陳腐である。



今月は、最近当勉強会に入会されたお二人黒澤さんと下山さんの作品を特集しました。夫々ユニークな感性をお持ちで今後が楽しみです。

句 付 け

8月の御題写真



紙芝居ベーゴマめんこ青ッ漬	三 春
下町に星くず落ちて歌謡曲	三 春
日が暮れりゃ灯付け音だしいざ出陣	平尾 富男
賑やかに巷を駆けた徒な夢	平尾 富男
裕ちゃんときよしが揃うこれもよし	黒澤 弘子
好きなもの長くとっときゃお宝に	下山 健夫

寸 評：今月の御題写真は三春さん出題の、浅草のヨーロー堂というお店の写真です。一見ゴタゴタしてどこに焦点を当てたのか作者の意図がわかり難い。「暑さボケ？何の写真かわからない」とか「このフォトに句をつける身になってみて」とか愚痴っぽい句もありましたが、当クラブの優秀な会員は、なんとか句を捻り出しました。

三春さん（2句）：写真を提供した張本人。さすが二句とも入選です。下町の雰
囲気をそれとなく表現しました。

平尾さん（2句）：訳のわからない写真にあわせて訳が分からない句ですが。

黒澤さん：そういえば石原裕次郎と氷川きよしのポスターがありましたね。

下山さん：レトロなグッズ。売り物なのに長くとっけばお宝になるとは。